

平成14年9月5日

「私的使用のための複製」によるオリジナルの中古市場への流出への対応(案)

生野 秀年

1. 中古 CD 問題の特性

音楽 CD の中古流通における特有の問題は、ユーザーがオリジナル CD を中古店に売却する際、デジタル・コピーを容易に作成し、それを手元に残すことができる点にある。特に、CD-R コピー機能付のパソコンが一般家庭に急速に普及し、極めて低廉なコストでオリジナル CD に代替されるパーフェクト・クローン（私的複製 CD）を手元に残すことが可能な環境の到来に伴ない、今後 CD-R コピーによるオリジナル CD の中古市場への流出の増大が懸念される場所である。

一方、パソコンによる CD-R コピー等の問題に対応するため、日本のレコード会社においても、本年3月から、パソコンによる音源データのリップングを拒む技術を採用した CD（コピーコントロール CD）の発売を開始した。今後その導入は逐次進むと見込まれるが、すでに市場に流通している、10万タイトルを超える CD 等はパソコンによるコピーに全く無防備な状態にある。CCCD が市場において広く普及するには、しばらくの期間を要するものと考えられる。

「私的使用のための複製」を認めた著作権法第30条の制定時（昭和45年）はもちろんのこと、デジタル録音機器に対する「私的録音補償金制度」が創設された平成4年においても、パソコンは一般家庭に広く普及していなかったが、ここ1～2年の CD-R コピー機能付パソコンの急速な普及とデータ用 CD-R の価格の大幅な低下により、これまでの音楽のコピーメディアに加え、データ用 CD-R の相当数が音楽のコピーに利用されるまでに至っている。困みに、日本レコード協会の調査結果によると、データ用 CD-R の半数近くが音楽のコピーの利用に供されていると推定される。しかし、パソコンもデータ用 CD-R も私的録音補償金の対象とはなっていない。

2. 中古 CD のユーザー利用実態（日本レコード協会調査）

(1) 中古 CD の購入者

- ① 中古 CD 購入利用率は 17.3% で、購入者数は 1,160 万人と推定される。
- ② 全国中古 CD 販売店の中古 CD 販売枚数は、平成 14 年（1 月～6 月）の半年間で、4,960 万枚と推定される。この数量は、同期間の日本の業界全体の CD 生産数量実績（1 億 6,570 万枚）の 30% に相当する。

(2) オリジナル CD の売却・コピー

- ① インターネット利用者に限定した調査によると（本項においては以下同じ）、中古 CD 販売店へのオリジナル CD 売却利用者は 180 万人と推定される。そのうちの 74.4%（これは 130 万人と推定される）がオリジナル CD をコピーしてから売却している。
- ② 中古 CD 販売店へのオリジナル CD 売却利用者のうちの 32%（これは 60 万人と推定される）が売却時にジャケット・歌詞カードのカラーコピー、スキャニングでのカラープリントの経験がある。
- ③ 中古 CD 販売店へのオリジナル CD 売却利用者のうち、購入したばかりの CD（購入後 3 ヶ月位）の売却経験者は 32%（これは 60 万人と推定される）。その際、データ用 CD-R/RW にコピーした経験のある者は 39%（これは 23 万人と推定される）。

3. CD-R/RW による音楽のコピー

(1) 音楽のコピーの推定数量

- ① 日本レコード協会調査によれば、過去半年間に「音楽用にコピーされた」CD-R/RW は、1 億 1,800 万枚と推定される。したがって、平成 14 年度年間では、少なくとも見積もっても 2 倍の 2 億 3,600 万枚の CD-R/RW が音楽用コピーとして利用されると推定される。日本記録メディア工業会の推定によれば、同年度の生 CD-R/RW（オーディオ用を含む）需要予測は、4 億 9,200 万枚なので、国内で一般に流通する生 CD-R/RW（オーディオ用を含む）の約 48% は音楽のコピーに用いられると推定される。
- ② 平成 14 年度年間に「音楽用にコピーされる」CD-R/RW のうち、オーディオ用 CD-R の需要予測は、2,500 万枚であるから、データ用 CD-R/RW（注 1）が使用される枚数は、2 億 1,100 万枚と推定される。「音楽用にコピーされる」CD-R/RW のうち、私的録音補償金対象となるオーディオ用 CD-R の構成比（2,500 万枚 ÷ 2 億 3,600 万枚）は、わずか 11% にすぎない。

（注 1）データ用 CD-RW にはオーディオ用を含む。

CD-R/RW の需要予測（実績） ※データ用 CD-RW にはオーディオ用を含む（注 2）

	データ用 CD-R/RW	オーディオ用 CD-R	合計
平成 11 年度（実績）	1 億 1,100 万枚	不明	—
平成 12 年度（実績）	2 億 2,600 万枚	900 万枚	2 億 3,500 万枚
平成 13 年度（実績）	3 億 4,700 万枚	1,800 万枚	3 億 6,500 万枚
平成 14 年度（予測）	4 億 6,700 万枚	2,500 万枚	4 億 9,200 万枚

（日本記録メディア工業会）

（注 2）私的録音補償金管理協会からの報告によると、オーディオ用 CD-RW の出荷は、平成 11 年度 102,358 枚、平成 12 年度 148,116 枚、平成 13 年度 179,071 枚であった。

(2) パソコンの CD-R/RW ドライブ搭載状況

最近販売されているほとんどのパソコンは、CD-R/RW ドライブ及びライティングソフトが搭載されている。因みに、“MYCOM PCweb PC 売れ筋ランキング (2002/7/25 付)” によると、デスクトップパソコンのトップ 10 及びノートパソコンのトップ 10 合計 20 機種のうち、CD-R/RW ドライブ、ライティングソフトが搭載されていないものは、ラップトップパソコンの 1 機種のみであった。また、CD コピー機能を特色として訴求しているものは 15 機種あった。

4. 対応の必要性

前述のとおり、CD-R コピー等の問題への対応として、コピーコントロール CD の発売が開始されたが、まだ緒についたばかりであり、市場での普及が一般化するには、しばらくの期間を要すると思われる。こうした環境下、CD-R コピーによるオリジナル CD の中古市場への流出など、パソコンを介した CD-R コピーにより、著作権者等が何らの対価も受けないコピーが益々増えることが懸念されるため、早急な対応が必要である。

5. 考えられる対応

① コピーコントロール CD (CCCD) の導入促進

(参考)・平成 14 年 4 月～6 月

CD 発売タイトル数合計	:	3,023 タイトル
CCCD 発売タイトル数合計	:	84 タイトル
		(導入率 2.7%)

・平成 13 年 1 月～12 月

CD 発売タイトル数合計	:	13,287 タイトル
--------------	---	-------------

・平成 13 年末

CD カタログ数合計	:	109,293 タイトル
------------	---	--------------

② セキュアなメディアへの移行

③ 私的録音補償金の見直し

私的録音補償金の対象となっていないパソコンによる音楽の CD-R コピーが相当な量で存在すると推定される。これを何らの手当もせず私的録音補償金制度の対象外としておくことは、もはや適当でなく、コピー実態に合わせるという観点で、パソコン(機器、メディア)についても私的録音補償金の対象とする方向で検討すべきと考える。

以上